

### 三菱商事を訪問して

8月5日、東京に到着して一番最初に訪問した企業は三菱商事だった。 商事の活動の説明を受け、製品が作られる過程で投資をしたり、資源開発などに関わったりしている会社だということがわかった。その他、三人の現役社員の方がそれぞれ担当なさっているグループの説明をして下さった。

生活産業グループの若林さんは、今進めていらっしゃるサーモンの事業について話して下さい。サーモンは色々な国から輸入して販売するので、色々な国に出張することが多いらしい。若林さんは学生の頃色々な国に行ってみたいと思っていたらしく、出張先の国の人達と関われることにやりがいを感じ、今の仕事をするのがとても楽しいとおっしゃった。この話をなさっている時の若林さんはとても楽しそうな表情をしていて、私も将来自分の好きなことを仕事にしたいと思った。

金属グループの佐藤さんは、鉄の次に多く使用されているというアルミニウムについて話して下さい。今佐藤さんは、アフリカで初めてつくられるアルミ製錬工場を建設なさっているそうだ。佐藤さんはアフリカに出張した時に感じたことを、私達にアドバイスして下さい。その中でも一番印象に残っているのは、「世界の中の日本を意識する」という言葉だった。日本で生活し、仕事をしていく上での常識が世界では当たり前のことではないのかもしれない。私が将来海外で仕事をする機会があれば、他国から見た日本を意識し、また、その国の国民性などを理解して色々な人と関わっていこうと思った。東日本大震災の復興支援に関わられた木目田さんは、支援の活動内容について話して下さい。三菱商事からは百億円の支援金と三千七百人のボランティアの方が派遣されたと知り、このような支援のお陰で私達が今普通に生活できているため、ありがたいと思った。

次に、ディレクトフォースの方と「日本の常識、世界のジョーシキ」について、木目田さんと「学生時代に培うチカラ」についてディスカッションした。ディレクトフォースの方とは、食事の際に食器を持つかどうかの文化の違いはなぜあるかということと、宗教について討論した。まず私には、なぜ文化の違いが生じるのかという考え方自体が存在しなかったため、そのテーマを提示された時点で戸惑ってしまった。しかし、話し合いを進めていくうちに、各国にはそれぞれ歴史があり、そこから文化が生まれたため、歴史が違うのだから文化も違って当然だ。歴史は文化のルーツだ。という結論に至った。ディレクトフォースの方は、常に話題に対して「なぜ」と追求なさっていた。だから、私も物事を考えるときにはそのようなものだと決めつけず、追求する心をもって考えようと思った。宗教については、世界で仕事をするにしても友人と話すにしても、相手の宗教観を先に調べておくことが重要だとおっしゃっていた。

木目田さんとは、「感じた上でコミュニケーションする」ということについて討論した。それは、まず多様性を認め、相手を理解してから自分の意見を言うということだ。木目田さん本人も、そのコミュニケーション力を学生時代に培っておけば良かったと後悔なさったらしい。相手が自分と合わない決めつけるのではなく、なぜ自分と合わないのかを考え、工夫して適応することが大切だとおっしゃっていた。

今回の三菱商事の訪問では多くのことを学ぶことができ、とても有意義な時間を過ごすことができた。特にディスカッションでは、物事を違う視点から見たお話を聞くことができ、とても勉強になった。ここで学んだことをこれからの生活に活かそうと思う。

### 三菱化学エンジニアリングを訪問して

8月5日の午後、私のグループは「三菱化学エンジニアリング株式会社」を訪問した。私はエンジニアが将来就きたい職業の候補に入っているが、理系の教科がかなり不得意だ。だから今回の企業訪問で企業の方からお

話を聞き、文理選択の参考にさせていただきたいと思っていた。

企業説明では、実際にエンジニアをなさっている吉本さんと熊田さんのお話を聞くことができた。お二人はチームで色々な工場をつくる仕事をなさっているようだ。吉本さんはベビーリーフ系の野菜を作る植物工場をつくるチーム、熊田さんは非可食バイオマス工場を建てるためのプロジェクトに参加なさっているようだ。一つのプロジェクトの中に各分野の専門家が集まり、チームを組んで仕事を進めていくことを説明していただいた。私は文系に進むとエンジニアのような仕事が出来なくなると思っていたが、文系の職種でも同じプロジェクトに関わって仕事ができると知り、違う方向から関わって仕事をするのも良いなと思った。

質疑応答では、いくつか特に印象に残った回答があった。仕事をしていて辛いと思うことはあるかという質問に対して、辛いと思うことは結構あるという回答だった。エンジニアは良い条件の仕事はほとんどない上、一つのプロジェクトに対して関係者が多いため意見や調整が合わないことも多く、辛いようだ。しかし、企業の方は「辛い」ということをどうとらえるかが重要だとおっしゃっていた。私はこのお話を聞いている中で、自分の思い通りにならなくても、そこからどう工夫していくのか考えることが大切なのだなと感じた。

エンジニアに必要な能力は何かという質問に対しては、英語を読み書き出来る能力という回答だった。書類を英語で書いたり、海外の技術書を見たりすることもあるため、断然重要だそうだ。また、世界で活躍するためには聞く、話す能力も必要になるため、意識しておいた方が良い

## 先輩方との懇談会

8月5日の夜には、東京の大学に通われている、二高のOB・OGの先輩方との懇談会が行われた。私のグループは三人の東大生である先輩と懇談した。

一人目の先輩は主に東大の長所と短所を話をしてくださった。東大の長所は、学部を選択するまでに一年の期間があるということだ。そのため授業を受講してから学部を選ぶことができ、選択肢の幅が広がる。一方で、短所は学部選択に期間が設けられている代わりに、専門的な学習にかけられる時間が少ないということだ。先輩は他にも、私達に勉強についてのアドバイスを下さった。その中でも一番強くおっしゃっていたのは、英語が重要だということだ。私は高校に入学してから、英語が少し勉強不足だと感じているので、先輩のお話を受けて、頑張らなくてはいけないと思った。

二人目の先輩は生活面についてのアドバイスを下さった。先輩は特に読書を勧めていた。先輩のおすすめは夏目漱石の「三四郎」、「それから」、「門」だった。私は大衆小説のような本しか読まないの、これを機に純文学も挑戦してみようと思う。

三人目の先輩は経済学部にも所属なさっていて、今研究なさっている「ゲーム理論」について説明して下さった。ゲーム理論とは人間関係を数学的に説明することだ。実際に先輩は表を使って私達に説明して下さった。私は、経済学部では経済のことしか学ばないというイメージを持っていた。だから、先輩の話を聞いてショックを受け、学部は名前だけで学習内容を判断するべきではないと思った。

OBの先輩方のお話は為になり、新しく得る知識ばかりだった。先輩方のアドバイスをふまえた上で高校三年間を過ごそうと思う、とおっしゃっていた。私はまだ高校に入学したばかりで英語は難しい文法には入っていないが、将来重要になることを意識して、しっかり学んでいこうと思う。それ以外にも、今の高校生には自分で自分の限界を決めず、何かをしっかり支えるプライドを忘れないことを求めるとおっしゃっていた。あるいは、殻に閉じ籠らずに、失敗してもいいからやりたいことをやった方が良いというアドバイスをいただいた。質疑応答では企業の方が時に面白く話をしてくださったため私達の緊張もほぐれ、疑問に思ったことを素直に口に出すことができた。質疑応答の後、企業の方が、高校や大学は色々なことを勉強する訓練の場であり、勉強は一生続くものだとおっしゃった。将来のためにも、今学ぶべきことをしっかり学んでいこうと思う。